



RI 2600 地区諏訪グループ



■会長 / 長崎政直 ■幹事 / 御子柴文夫

■例会 木曜日 PM12:30 うらかめや ■事務所 〒393-0013 下諏訪町小湯の上 3473 TEL0266-26-4006

http://www.suwakorc.net e_mail suwakorc@suwakorc.net

第 1221 回例会報告

平成 22 年 4 月 28 日(木) 晴

会長挨拶

会長 長崎政直

◇幹事報告

原子力エネルギーの行方

本日の例会は、青年海外協力隊で、マダガスカル島で支援して来た市野沙登美さんの卓話を頂きます。市野さんは、立命館大学在学中に、アメリカ大学、ガーナ国立大学へ留学、卒業して、協力隊へ参加されたそうです。

「青年海外協力隊活動を通して学んだ「ボランティア」の意義ということで、赴任地マダガスカルやボランティアの心をお話いただけたと思います。ご期待ください。

この一週間、楽しいこと、うれしいことがあったらどうかと考えてみましたが、わが身には、それほどのことも無く、つまらない一週間だと・・・ところが、外に心を向けると、ありました。森山広くんが、見事、諏訪市会議員に当選されました。告示順は、最後の 16 番目で、不吉な思いをしておりましたが、中位で当選できました。これからの取り組みに期待するところ大です。ご活躍を祈念しております。また、変わらずロータリー活動も続けてくれるということですから、よろしく願いいたします。

東日本大震災、福島原発ですが、相変わらず、はかばかしくありませんが、この経過の中から、私たち国民は、原子力エネルギーについてのこれからのを、しっかりと決めなければならないと思っています。

原子力エネルギーは、3E 神話、経済性、安定供給性、環境に良いという利点が強調され、利用されてきました。しかし、今回の震災では、地震、津波によって破壊され、その3E の根拠が、いずれも崩れ去りました。私たちの安全安心の暮らしのために、このエネルギーに将来にわたって依存して行くのかを決めなければならないと思っています。

最後に、明日は、里山整備、ブナの森の手入れが、中学生とともになされます。前年は、あいにくの荒天で、ロータリーからの参加は 5 人ほどで、中学生達の思いに伝えられなかったように感じています。今年は、できるだけ多くの会員の皆さんが参加して、子供達の思いに伝えたいと願っています。よろしく願いいたします

1. 文書受領・配布連絡並びに連絡事項
 - ①諏訪 RC よりウイークリーを受け取りました。
 - ②諏訪ローターアクトクラブ創立 30 周年記念例会(6 月 19 日)への登録案内がまいりました。
 - ③東日本大震災被災地の仙台レインボー RC 岩淵幹事(090-3640-3132) 〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区日の出町 3-8-18(株)ライブアップ倉庫内 TEL022-237-2101 から寝具(掛布団・敷布団・枕・シーツ・カバー)支援要請がまいりました。気仙沼地域で不足しており、(出来れば新品)可能な方は連絡をお願いします。
 - ④「諏訪湖周まちじゅう芸術祭・諏訪の長い夜」後援のお願いがまいりました。詳細を得てから再度連絡致します。
 - ⑤国際ロータリー第 2600 地区綿貫ガバナーより「東日本大震災児童・生徒に対する就学支援のホームステイとして子どもを受入れることが可能な方の、ホストファミリー登録お願い」が入りました。『長野市在住の新田純平医師が、冬季五輪の「一校一国運動」と戦時中の「集団疎開」にヒントを得て「一校ひとくみ:ながの」の支援活動を立ち上げ現在県内医療関係者を中心に活動を展開中です。国際ロータリー第 2600 地区は、ホストファミリー登録という形で応援していくことにしましたので、ご理解を賜りホストファミリー登録をお願いいたします。詳しくは、ホームページ」

■ニコニコ BOX

| | |
|-----|-----------|
| 28名 | 30,000円 |
| 累計 | 1103,000円 |
| 目標額 | 130万円 |
| 達成率 | 84.8% |

今週のことば

市野さん、ウクライナ赴任前のお忙しい時期にお越いただき誠にありがとうございます。楽しみにしておりました(その2) 長い間心配と迷惑をおかけいたしました。

赤羽基

■出席報告

| | |
|------|-------|
| 会員数 | 35名 |
| 出席対象 | 35名 |
| 出席者数 | 28名 |
| 出席率 | 80.0% |
| 前回修正 | 82.8% |

■ 次回のプログラム

5月19日

会員卓話

森山広会員

「諏訪市議選かく戦えり」

クラブ奉仕委員会



2010-2011 年度 国際ロータリーテーマ
地域を育み、大陸をつなぐ

BUILDING COMMUNITIES BRIDGING CONTINENTS

ウイークリーの原稿送付先は PR@suwakorc.net です

<http://www.ikko-hitokumi-nagano.jp> をご覧下さい。』

下諏訪中学校との協働事業「ブナの森」

社会奉仕委員会

4月29日ブナの森整備事業が下諏訪中学校1～2年生26名と先生2名、ロータリアン15名が参加して行われました。

快晴の中、下草刈とミズナラの植樹が1時間余りで終了しました。生徒たちは初めての体験、慣れない手つきでも大勢が参加したお蔭で、短時間で綺麗に整備されました。次年度の事業は現在の西側斜面を伐採し今までの様に植樹を続ける事になると思います。ご協力いただいた会員の皆様には感謝いたします。



1221 回例会 講師卓話例会

国際奉仕委員会

青年海外協力隊活動を通して学んだ 「ボランティア」の意義

青年海外協力隊 平成20年度1次隊
マダガスカル派遣 村落開発普及員

市野 紗登美

1. 自己紹介

市野紗登美 (いちの さとみ) 25歳。長野県長野市出身。

国際協力を目指すようになった経緯は、1998年2月、長野で開催された20世紀最後の長野オリンピック開会式での経験がきっかけ。ピースアピールソング『明日こそ、子どもたちが…』を開会式で歌いクリス・ムーンさんとの出会ったことで、世の中に不幸な子供たちがいることを知る。

大学では国際関係学・国際協力開発を専攻。在学中はアメリカ・ガーナへの留学も経験、世界の実情を学ぶ戦争・貧困・飢餓・病気…開発とは何か？国際協力とは何か？どうしたら人々はよりよい世界を作れるのか？子どもたちを救うには？を深く考える。その結果、

最貧国の集まるアフリカへの興味を強く抱き、5歳の誕生日を迎えることなく死んでいく子どもたちを思い、どうしたら人々が幸せに暮らせるのか？を考える。

大学卒業後、すぐに青年海外協力隊に参加。村落開発普及員としてマダガスカルに赴任(2008年6月)

2. 派遣国の概要

Republique de Madagascar:マダガスカル共和国

首都:アンタナナリブ(通称タナ)

面積:58万7041km²(日本の約1.6倍)世界第4位の大きさを持つ島

人口:1963万人(2008年)

言語:マダガスカル語・フランス語・英語(公用語)

通貨:アリアリ(Ariary)

一人当たりGNI:340USドル

1960年6月26日フランスより独立(去年は独立50周年)

マダガスカルと言えば…バオバブの木で有名ですが、主食はお米です

平均的な住民の1日の生活の様子は次のようです
朝はとて早く4時～5時起床。朝食は、多くはお粥を食べ、おかずはないことが多い。

調理は木炭や薪で。これにより眼の疾患など健康を害する女性も多い。また掃除や水汲み、洗濯などの水は井戸水、河川、用水路から汲んでくる。(都市部では水道や共同水場がある)洗濯は川でやる人が多い。いづれにしても女性にとって重労働。

学校は大体7時30分開始。教師の数が足りないため、特に公立校では午前/午後の2部制を取る学校もある。授業は国語(マ語)、数学、理科、社会、フランス語。その他私立校では体育なども行うが、音楽はない。

午前中、大人は農作業へ。

昼食は、米飯とおかず。出先では簡易食堂で済ませることもあるが一般的には帰宅して昼食。その後、午睡や農作業に従事する。

夕食の準備は夕方から始め、暗くなり出したころから米飯とおかずで夕食をとる。電気がない地域ではそのまま就寝。TVなどを見る家庭でも、9時頃には就寝。



3. 活動内容

要請内容:

病気の予防啓発活動を通しての地域住民の保健衛生状態の向上を目指す。

要請の背景:

- 1)住民の衛生的行動・意識の欠如:疾患予防法を知らない(手洗い・栄養・避妊法など)
- 2)衛生インフラ、モノ不足:道路、医療従事者、水道システム、貧困などがあげられる

村落開発普及員としては珍しい診療所へ新規配属

1)任地と配属先の概要

任地:ヴァキナンカラチャ県アンチラベII郡アンブヒバリ市

人口:約58,000人(19村)

特産品:米、ニンジン、大根、じゃがいも etc...

配属先:アンブヒバリ基礎保健センター

(Centre de Sante de Base: CSBII Ambohibary)

市内には他に看護師が1名しかいない診療所の2つあるのみ

管轄:13村、約47,000人

スタッフ:一般診療医 1名、助産師 1名、歯科医 1名、看護助手(無免許、訓練済み) 3名

あまり機能していない保健普及員(村落部で住民に対する啓発を行うボランティア) 42名(各村に3~5名)

2)活動内容

- 1.診療所では
病院業務補助、カルテ整理、体重測定、啓発活動
- 2.村落部では
栄養指導 (3色栄養群指導・離乳食デモンストレーション)、伝統的産婆に対する指導
- 3.学校では
手洗い指導、歯磨き指導
- 4.番外編として
日本語教室、日本の遊び・歌・ダンス指導、日本の児童との手紙交換
- 5.手洗いソングの作成
手洗いソングの作成の背景:
マダガスカルでは下痢性疾患が子どもの死亡原因の20%を占め、年間13000人以上の5歳未満の子どもたちの命を奪っている。
半数以上の子どもたちは、水や衛生に関係する病気を日常的に抱えていて、年間でのべ350万日も学校を欠席
従来の手洗いソングの問題点:
従来からある手洗いの歌は『子どもは手を洗おう、私たちはきれいだね』のような歌で実用性・面白みがない
コネをフルに活用し、国民的歌手にお願いして楽しいCD&DVDの作成に成功。「手洗いソング」は、みんなに愛され広まりつつあり、普及に力を入れている

3)嬉しかったこと

- 手洗いソングの完成
- 少しでも日本のことを知ってもらえたこと
- 予防接種率(データ)が改善されたこと
- 自分に自信がついたこと
- 日本の素晴らしさを感じ、日本に生まれたことの誇りを持って、自分自身の再発見ができたこと

4)苦勞したこと

- 言語(マダガスカル語)を覚えること
- 生活環境が想像以上に厳しいこと。
- 物・金銭をねだられること。
- 過度な期待をされること

| 現地の人々 | 日本人 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・日本人だから金持ちだろう ・何かくれるかもしれない ・何だかよく分からないけれど、とりあえず受け入れてみよう ・もらえるものはありがたく | <ul style="list-style-type: none"> ・自分でも何かしたい ・現地の人のために働きたい ・お金や物ではなく、人々が生きる力になるものを... |

5). 途上国で行うボランティアの意義

・現地の人々の要求に応えきれない葛藤や、不安定な継続性。その中で、人々と共に生活し、何かを見つけ出す



- ・自己満足かもしれないが、一時的にでも何かを残すことも大切
- ・同じ地球に住む仲間であることの確認、日本での生活の見直し、グローバルマインドを育成することが、活動の還元へとつながる

- ・全てのニーズに応えることは不可能だが、共に働くこと、共に生きることで生まれる意識、それを日本に、世界に伝えていくこと。
 - ・それこそが地球市民の育成につながり、よりよい世界づくりにつながると信じています。
- ご清聴ありがとうございました。

素晴らしい講演をいただいた市野さんの、今後のますますのご活躍を期待いたします。

赤羽委員長、退院早々担当例会ご苦勞様でした

(文責 河西達雄)